

厚生常任委員会行政視察報告

平成29年10月1日から3日にかけて、福岡県大牟田市、筑後市、大分県中津市の行政視察を行いました。

■大牟田市「認知症ケアコミュニティ推進事業について」

高齢化が進む大牟田市において、介護保険制度のもと、介護事業所に勤務する職員も行政職員も介護サービスの質を向上させるため、特に認知症の人のケアをどのようにしたらよいかという課題に対し、平成13年に大牟田市介護サービス事業者協議会の専門部会として、認知症ケア研究会（現在は、認知症ライフサポート研究会）を発足させ、「地域全体で認知症の理解を深め、地域で支える仕組みをつくり、認知症になっても誰もが住み慣れた家や地域で安心して暮し続けることができるまちづくり」を目的に認知症ケアコミュニティ推進事業を行っています。

主な事業内容は、地域やケア現場で認知症の人の尊厳を支え、本人や家族を中心に地域づくりを推

■筑後市「筑後市立病院の地方独立行政法人化について」

進していく人材を育てるために、認知症コーディネーター養成研修を実施し、また、子どもの頃から認知症について正しく理解するため、小中学生を対象に子どもたちと学ぶ認知症絵本教室を開催しています。毎年、地域住民、警察、公共交通機関、タクシー会社、商店、行政機関など、全市を挙げて、認知症の人が行方不明になったという想定の下、実際に行方不明者役の人を捜索し、関係機関に情報伝達するなどの訓練を行う認知症SOS模擬訓練を実施しています。参加者は、現在、約3、000人となり、この訓練でいざというときに、行方不明になった認知症の人をできるだけ早く安全に保護するための実効性の高いネットワーク構築を図っています。

このような事業を通じて、認知症でも安心して暮らせる社会の醸成に取り組んでいます。

本市においても切実な問題として捉え、今後の参考にしなければならぬと感じました。

■中津市「中津市民病院の運営について」

中津市民病院は、大分県北部と福岡県東部の一部に広がる24万人医療圏における唯一の公的基幹病院であり、平成26年からは地方公営企業法の一部適用から全部適用

に運営形態を変え、病院事業管理者を設置。病院長が病院組織の統率や運営など医療部門を中心に担当し、病院事業管理者は経営基盤構築と経営管理を担当して経営の健全化に力を注いでいます。

また、地域の中核病院として、救急搬送時に、救急救命士が医師に直接連絡して情報提供する救急ホットライン体制の構築や、医師不足など課題の多い小児救急体制を改善するため、県、医師会や近隣自治体などによる支援の下、より強固で新たな体制を構築しています。救急を含めた体制整備による新規患者数の増加などにより、病床稼働率が90%を超え、黒字経営を維持しています。

本市とは経営形態の違う2つの病院を視察しましたが、本市でも経営の健全化へ向け、経営計画の着実な実行が必要だと感じました。



▲中津市民病院